



かがやけ憲法 キャラバンニュース

戦争する国 “やめなはれ”

やめさせよう！安倍政権

★京都・11月24～25日

●「安倍政権をやめさせる大集会」に2000人参加



京都での憲法キャラバンは、11月24～25日に展開されました。24日には、「安倍政権をやめさせる大集会」が円山公園野外音楽堂で開催され2000人が参加しました。集会後には、デモ行進をおこないました。

集会実行委員会を代表して、京都総評の吉岡議長は「原発再稼働、労働法制改悪、消費税増税、特定秘密保護法など問題はたくさんある。辺野古への新基地建設反対では、沖縄県知事選で県民の意思が示され、10万票差で翁長知事が誕生した。安倍政権にきっぱりと審判を下さなければならない。12月には京丹後市

でXバンドレーダー基地稼働がもくろまれている。今こそ一致する一点での共同で大きな流れを構築し、日本から米軍基地をなくし、『平和で豊かな日本を』の思いひとつにして全力をあげたかおう」と呼びかけました。

京都府保険医協会理事長の垣田さんは連帯あいさつで「経済指標が悪かったこの時期に、7百億円かかる選挙を何でいするのだという思いだ。地域で景気の良いとは何処の話だ。6月に医療・介護総合法が通過して、国は『これからは福祉にお金を出さない。自分たちでやってください』ということになった。一生懸命、今の日本をつくってきた高齢者の方たちに対し、医療を使ってはいけませんとは、あまりにひどすぎる」と話しました。

沖縄県労連の中里議長は、「沖縄県知事選挙で、オール沖縄の意思を示した。復帰前・復帰後と米軍基地からの被害で痛めつけられてきた。1995年少女暴行事件の怒りが沸騰し抗議集会に8万5000人が、2012年のオスプレイ配備反対集会には11万人の県民が参加し成功させてきた。オール沖縄の思いを訴え10万票の大差で翁長知事が誕生した。これからたかかわれる総選挙では1区から4区にオール沖縄の候補者を立て、方向転換した自

民党の議員を追い出す。京都でも気持ちを一つにし、米軍基地問題などあきらめず、ともにがんばっていこう」とエールを送りました。

リリーススピーチでは、「消費税増税、利益が出ないと深刻。これ以上の増税は許せない。潰されてたまるか。あの人(安倍)の顔は2度と見たくない」(京商連)、「ナショナルセンターの枠を超えて、派遣法を2度潰した。労働者の声を大切に、雇用は正社員が当たり前の社会を目指して、こうした悪法を提出するような政権は一刻も早く辞めさせよう」(労働法制京都連絡会)、「米の需給調整を反故にして米価は1俵あたりの生産費1万6000円を1万円足らずで売っている。農業と農地を企業に売り渡すために農協と農業委員会を解体させようとしている。最悪の内閣だ」(農民連)、「教育再生に心を痛め、腹を立てている。それは戦争する人づくりをねらっているからだ。35人学級を40人に戻して、学級数を減らして4000人の教員をいらぬとしている。行き届いた教育を保障したい」(教職員組合)、「みなさん老後のイメージをお持ちですか。医療・介護の改悪で、特養の入所を制限し、負担も増える。介護労働者の賃金は、全産業の平均に比べ9万円も低い。介護される人も介護労働者もみんな笑顔の社会を実現したい」(民医連)、「夜勤明けの看護師です。患者にすんなれない人が増えている。医療社会保障制度の改悪、そして診療報酬・介護報酬の引き下げ。医師、看護師、介護士を増やしてと運動をしている」(京都医労連)と、発言が続ききました。



新婦人が、「女性の活躍言うのなら、戦争する国、止めなはれ」、「女性の願いを踏みにじる、安倍内閣は辞めなはれ」、「女性の活躍言うのなら、給料上げてよ」、「女性の活躍言うのなら、今すぐ保育所作ってよ」、「女性の活躍言うのなら、生涯派遣はごめんです」、「消費税は上げないで、安倍首相は声聞いて、辞めなはれ」とコールし、会場は大いに盛り上がりました。

福島から避難している菅野さんは、「放射能の汚染のない安心して暮らせる日本を返して欲しい。東電という不健全な会社は、幸せだった暮らしを奪っていった。裁判の傍聴をお願いします」と訴えました。

京丹後Xバンド連絡会は、「10月4日の府民大集会には1400人が集まり新聞やテレビで報道された。建設工事は着々と進み、レーダー搬入は10月17日に行われたが、京丹後市は連絡を受けていたのに住民には明らかにしなかった。対応に不信感が募っている。約束時間外の工事、160人もの軍人がかっ歩き、その中には刺青を入れた人もおり、不安の声が上がっている。10月27日軍属のレンタカーが電柱に衝突したが、警察は自損事故の軽微なものだと隠そうとした」と実態を報告しました。

●京丹後市・米軍専用Xバンドレーダー基地工事現場を視察

すでに事故が4件 高電磁、巨大な電子レンジが置かれているようなもの

25日、京丹後市・経ヶ崎の米軍専用Xバンドレーダー基地工事現場を隣接する九品寺から視察。「丹後への米軍基地建設を憂う宇川の会」の三野さんから話を聞きました。雨が降りしきる中をたくさんの大型重機が作業をしていました。「ものすごくしっかりした建物の基地で、最近では24時間照明が点きだした。Xバンドの電磁波は高周波で巨大な電子レンジが置かれるようなもので、放射能と一緒に目に見えない。今日のように強風が吹いたらどうなるのか。水の問題も気になる。1日50トンも使用し、排水は赤茶け、油も使うという。米軍と軍属が160人配備され、今の居住地は、120人はホテル住まいで、そこへは観光バスをチャーターしての送迎とレンタカーで対応している。10月14日からすでに4件の交通事故が発生し、軽微だからと私たち住民には公表してい

ない。米軍は一切何も言わず、警察が来てレッカー車がシートで隠してもって帰った。発電機のモーターの『ウー、ザーザー』という音がするため、その騒音で最近頭が痛くなっている人がでている」と現状を説明してくれました。

●京丹後市への要請 住民に広がる不安 問われる行政の対応

京丹後市には、全労連の長尾副議長、京都総評の池田事務局次長、辻事務局員、丹労連の石井議長が要請しました。京丹後市企画総務部長が対応しました。

「基地が出来て、住民の不安が高まっている。どれだけ市民の声を聞いているのか。市はXバンドの搬入日をあえて言わなかったし、4月以降、住民説明会も開かれていない。日々住民の不安が広がっている。4件の事故の関係は基地対策室がきっちりと対応し把握すべき」「住民が聞きたい情報を米軍、防衛省に聞いて伝える役割がある。新しい事態への説明会がされていない」「タトゥーを入れ、上半身裸の多数の人に出くわすなど異常な雰囲気がある。重大な事故が起きないように行政が何をし、どう応えるのか問われている」と要請し、「住民の安全を守るのが自治体の役割である」ことを確認しました。

●京都府への要請 国との関係で毅然とした対応を

京都府への要請で京都総評の梶川事務局長は、「舞鶴へイージス艦の入港、12月より稼働など北部一帯を拠点とした施設が連続的に作られていることなど、国民にとって安心・安全ではない事が起こっている。この危険な動きと北部の活性化、地域経済の仕組みとは相容れないものだ。基本的部分である安心・安全で、一つひとつ起こっている問題で、知事の立場が問われる大事な時期である」、全労連の長尾副議長は「本格稼働が年内に強まり、住民の不安が高まる中、知事が国との関係で毅然とした対応をとるようお願いしたい」と要請しました。

これに対し、京都府商工労働観光部労働雇用政策課の柴田敏雄課長は、「受け入れ前提条件は、守ってもらうのが優先。皆さんの声を聞きながら、状況を防衛省に伝える」と述べました。また、「地域経済を循環的経済で立て直すための提案をしたい」と要請したのに対し、「ふるさとに帰って来られる条件として、働く場とセットで企業を呼び込む。京都に住んでいて良かったと思える、働き、住み続けられる制度政策を、ご意見を頂きながら進めていきたい」と回答しました。